

栃木・群馬における魅力的な資源を活かした広域的観光活性化計画

群馬県及び連携する栃木県の現状

群馬県・栃木県間においては、「二社一寺（日光の社寺）」「尾瀬山の鼻ビジターセンター」「鬼怒川温泉」等の観光拠点が集積し、両県間の周遊観光も盛んである。

また、令和2年6月1日には交通の要衝である「群馬コンベンションセンター（Gメッセ）」が開所し、県内外におけるアフターコンベンションの需要増も見込まれるなど、本地域の観光立地の優位性が高まっている。

課題

観光拠点間の交通の円滑化を図り、周遊観光を促進する道路整備等を推進する必要がある。

目的

両県の持つポテンシャルを活かすため、群馬県・栃木県の両県をつなぐ広域観光周遊ルートを整備し、広域交通ネットワークによる周遊観光を促進することにより、本地域の更なる観光活性化を図る。

整備効果の検証

（A11-003（国）120号 須賀川工区）

群馬県と栃木県を繋ぐ（国）120号須賀川バイパスが、平成30年11月17日に開通し、バイパス整備により、群馬県の観光拠点「尾瀬山の鼻ビジターセンター」における観光入込客数が11万人から16万人に上昇した。整備前から約1.5倍となっており、広域観光周遊ルートの整備が観光活性化に寄与していることが確認できる。

事業の指標と成果報告

指標1 連携する2県の観光拠点における観光入込客数の増加

観光入込客数 = 日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者

現況:1,138万人(H28) ⇒ 目標:1,745万人(+53.3%)
⇒ 実績: 973万人(-14.5%)(R5)

指標2 群馬県の観光拠点における観光入込客数の増加

現況:148万人(H28) ⇒ 目標: 335万人(+126.4%)
⇒ 実績: 187万人(+ 26.4%)(R5)

■目標未達成の要因

R2年～R4年にかけて新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言等の発令により外出が抑制されたことで、R元年までと比較して、群馬県全域で観光入込客数が大きく減少したことが要因と考えられる。

■事業の成果

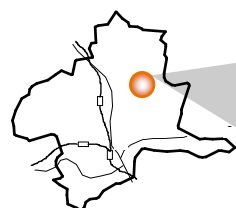
感染症拡大下において、群馬県の観光拠点における観光入込客数は**39万人増加**しており、本事業が観光活性化に寄与していることが確認できる。

栃木・群馬における魅力的な資源を活かした広域的観光活性化計画

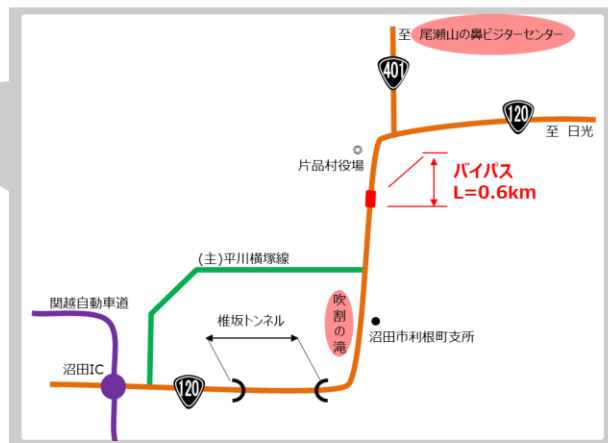
整備効果事例

事例① （国）120号 バイパス整備

■位置図



箇所：
片品村須賀川地内



■整備効果

整備前



急カーブに加え幅員が狭く、栃木県との周遊観光や住民の安全に支障をきたしていた。

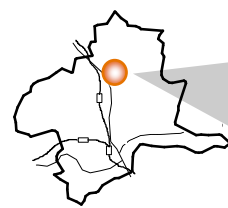
整備後



線形や幅員の課題が解消され、栃木県とのアクセス性が向上した。

事例② （一）石倉上牧線 石倉2期工区

■位置図



箇所名：
みなかみ町石倉地内



■整備効果

整備前



現道の幅員が狭隘であり、水上ICから上牧温泉へのアクセスに支障をきたしていた。

整備後



現道拡幅により幅員の課題を解消され、上牧温泉へのアクセス性が向上した。